

令和6年度 学校評価書(共通) 後期

校名 宇和島市立吉田中学校

1 自己評価書

教育目標 心たくましく、地域とともに歩む生徒の育成 ～地域とともに「ふるさと 吉田」の明るい未来を目指して～							
基本方針		1 家庭・地域との連携を更に進め、家庭・地域から応援され、信頼される学校づくりを目指す。 2 知、徳、体のバランスがとれた「たくましく生きる力」を育む学校づくりを目指す。 3 ウェルビーイングを高め、一人の人間として互いに認め合いながら、多様な人材を育成する学校づくりを目指す。 4 全教職員が高い志と実践的指導力を持ち、教育愛にあふれた学校づくりを目指す。					
本年度重点目標		1 応援され、信頼される学校づくり 2 「たくましく生きる力」を育む学校づくり 3 多様な人材を育成する学校づくり 3 教育愛にあふれた学校づくり					
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価	
確かな学力の定着と向上	①	全国学力・学習状況調査及び市標準学力調査の活用	各調査の分析により成果と課題を把握するとともに、「身に付けさせたい力」の明確化を図り、組織的に推進することができた。	・分析資料の作成 ・具体的な対策の実施	B B	B	
	②	授業改善	主体的・対話的で深い学びの実現に向けて授業改善に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・生徒アンケート	A B A	A	
			ねらいを明確にした分かる授業を行うとともに、学びの成果を実感させる振り返りを行った。	・教師アンケート ・生徒アンケート	A A	A	
			一人1台端末(iPad)やEILS(コンテンツバンク)の活用により、個別最適な学びを推進したり学習内容の定着を図ったりした。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・児童生徒アンケート	C B A	B	
	③	家庭学習の充実	家庭との協働による主体的な学習習慣の確立に努めた。(予習・復習・振り返り等)	・教師アンケート ・保護者アンケート ・生徒アンケート	C B B	B	
	④	読書活動の充実	読書に対する関心や意欲が高まるような取組や声掛けを積極的に行った。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・生徒アンケート	D D B	C	
	⑤	ふるさと学習及びESDの推進	社会や地域の課題解決や活性化に向けた活動及び調べ学習等を通して、地域に対する誇り・愛着の醸成や、持続可能な社会を創造しようとする態度の育成に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・生徒アンケート	A B A	A	
	(成果と課題) ○ 学力向上推進主任が中心となり、様々な指導法を学ぶ機会を作ることができた。それにより、教職員の意識が高まり、授業改善につながった。 ○ 総合的な学習の時間の充実や地域行事への積極的な参加によって、地域を愛する生徒が増えた。 ○ 通信環境が悪い(かなりの時間がかかる、つながらない場合があるなど)、EILS等の活用頻度が少なかった。 ○ 読書活動の充実について、教職員と保護者の評価が低い。(肯定率:教師46%、保護者41%、生徒81%)						
	(改善策等) ○ 朝読書の時間に教職員も一緒に読書したり、お薦めの本を紹介したりして、読書の意欲を高めたい。 ○ デジタルを活用した個別最適な学びの研修機会を増やすとともに、通信環境の改善を関係機関に求めていきたい。						
	評価項目	評価小項目	評価の観点	評価資料	評価	評価	
	生徒指導の充実	①	規範意識の向上	規範意識を高めるための共通理解、共通実践に努め、児童生徒の行動規範が高まってきた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・生徒アンケート	B A A	A
		②	児童生徒の健全育成	児童生徒に寄り添った対応を行うとともに、児童生徒同士の人間関係づくりや仲間意識に支えられた集団づくりの推進に努めた。	・教師アンケート ・保護者アンケート ・生徒アンケート	A A A	A
				不登校の未然防止や状況改善に向けて、校内体制の整備と早期対応に努め、チームとして取り組んだ。	・教師アンケート ・生徒アンケート ・保護者アンケート	A A A	A
				いじめの未然防止、早期発見に努めるとともに、迅速な初期対応や組織的な対応等により、いじめの早期解決に努めた。	・教師アンケート ・生徒アンケート ・保護者アンケート	A A C	A
		③	関係機関との連携	スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、こども支援教室わかたけ等の積極的な活用を心掛けた。	・教師アンケート ・生徒アンケート ・保護者アンケート	B A B	B
④		自己肯定感 等	自己肯定感を涵養する取組の工夫・改善を具体的にに行った(自分にはいいところがある)。	・教師アンケート ・生徒アンケート	A B	A	
			自己有用感(人の役に立っている)や達成感を醸成する取組により、子どもの意識に変化が見られた。	・教師アンケート ・生徒アンケート	A B		
(成果と課題) ○ 定期的な指導部会で情報を共有し、諸問題に対して組織的に対応することができた。 ○ 不登校の生徒や保護者に対し、外部関係機関とも連携しながら支援することで、数名の生徒が好転した。 ○ いじめ問題への対応については、保護者の評価がやや低い。 ○ 自己肯定感等の高い生徒の割合が増えた。(自己肯定感:前期67%→後期84%、自己有用感:前期72%→後期82%)							
(改善策等) ○ 人間関係のトラブルに対し、丁寧な聞き取り、事実確認、生徒への指導、保護者への説明を確実に行っていきたい。							

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満

評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
働き方改革	①	ワーク・ライフ・バランス	時間外勤務が月80時間を超える教職員ゼロを目指すために、教職員の働き方の意識改革に努めた。	・教師アンケート ・「出勤・退庁調査」の分析と活用	D D	D
	②	働きやすい環境づくり	「何でも相談し合える雰囲気づくり」「経験の浅い教職員を皆で支える雰囲気づくり」など、温かく働きやすい職場づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
			休業日の設定を含めた計画的な課外活動や部活動等の適切な運営がなされた。	・教師アンケート	B	B
	③	他の教職員のサポート体制の充実	教職員同士が仕事を手助けしたり、スクールサポートスタッフ、地域人材などを積極的に活用したりして、職場の仕事のサポート体制が充実した。	・教師アンケート	A	A
	(成果と課題) ○ 超過勤務時間が月80時間を超える教職員の割合が、依然として高い。(6割が80時間超、3割が100時間超) ○ 年度末までを見通した計画的な教育課程の実施により、5時間授業の日を増やすことができた。 ○ 数日間であるが、休日の部活動指導を部活動指導員に任せることができ、部活動顧問の負担が軽減された。 ○ 教育活動支援員、SC、SSWとの打合せや情報共有の時間が、十分には確保できなかった。					
(改善策等) ○ 管理職、各主任の立場にある者から率先して意識改革に努め、より働きやすい環境を作っていきたい。 ○ 部活動指導員の確保と連携に努め、まずは休日の指導を部活動指導員に任せられる環境を作っていきたい。						
評価項目	評価小項目		評価の観点	評価資料	評価	評価
地域との連携	①	学校運営協議会の活性化	全教職員に対して、学校運営協議会の役割・目的の周知徹底に努めた(校内体制)。	・教師アンケート	A	A
			学校運営協議会・地域学校協働活動の活性化(地域・保護者へ)を図り、熟議によって地域の力を学校運営に生かすよう努めた。	・教師アンケート	A	
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
	②	情報発信	家庭や地域に対して、教育活動に関する情報を、文書やホームページ等で積極的に発信した。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	B	
				・地域アンケート	A	
	③	来校・相談体制	来客・電話対応を丁寧に、保護者や地域の方々の声をしっかりと聞くことで、来校しやすく、相談しやすい体制・雰囲気づくりに努めた。	・教師アンケート	A	A
				・保護者アンケート	A	
				・地域アンケート	A	
(成果と課題) ○ 学校運営協議会の熟議が深まり、委員から出された意見を、その後の学校運営に具体的な形で生かすことができた。 ○ ホームページによる情報発信は、掲載内容や更新頻度にやや偏りが見られた。						
(改善策等) ○ 家庭や地域への情報発信について、どんな内容をどんな手段で発信するのかを明確にし、過度な負担にならない範囲で適切に発信していきたい。						

<評価基準> A 目標を達成 B 8割以上達成 C 6割以上達成 D 6割未満